

2019 年度ブラジル短期留学報告書

国際食料情報学部・国際バイオビジネス学科・41819079・鈴木萌

・当初の目的

私がブラジルに行ったのは、ブラジルと日本の農業や文化の違いを学びに行こうと考えたからだ。また、短期留学に行くことでテレビや本などでは出来ない、実際に触れて学べる実学ができると思ったからである。

・目的達成のために現地で活動した内容

現地ではブラジルの農業や文化に触れるため、現地の方の話を積極的に聞き、実際に説明されているものに触ったりして理解を深めた。

特に印象に残っていることが4つある。

1つ目にファームステイ先で様々な作物に触れたことである。今までカカオやアサイーなどはテレビなどの映像でしかみたことがなかった。ファームステイ先の農園では実際に収穫しているところが見学でき、カカオの実を食べることができた。カカオは種をチョコレートにすることしか知らなかったが、今回実を食べてみて実もとても甘いことがわかった。ここでしか体験出来ない経験ができとても貴重な機会となった。

またファームステイ先ではコショウの収穫をしており、その作業を手伝うことができた。コショウの収穫は今から11月まで続くらしく、収穫できる木は数多くあるのに収穫が間に合わずコショウの実が熟れすぎてしまうことも多くあると知った。

2つ目に向こうの食文化に触れられたことがとても印象に残った。

ブラジルは日本と違いフルーツが多く食べられていると感じた。そのためレストランなどのジュースは全て果物を絞って作られたものが主流で飲みやすかった。またブラジルのフィジョアードやマニソーバという伝統的な料理もあり日本では食べたことの無いような料理が数多く食べられ、日本との食文化の違いを感じた。

また北と南など地域によって主に食べている料理が、北はタカカ、バタパ、とエビを使った料理などが多く南はシュラスコやフィジョアードなど少しずつ変わることも興味深かった。アサイーやフルーツの味も北と南で大分違うことに驚いた。北の方がフルーツは甘くて美味しかった。また、現地でアセロラを飲んだ際にフルーツの甘い味がして日本とは全く異なった味がしたことにとっても衝撃を受け、非常に美味しかった印象もある。

3つ目にブラジルの移民した方々のお話もとても印象深く残っている。

ブラジルには過去に日本人が移住をし、現代もその子孫が2世、3世と続いている。移民資料館に行った際、当時の様子が鮮明に知れた。

南の移民者は移民した場所に土地がなく、開拓するところから始まった。彼らは戦時中苦しい時代を過ごし、一時的に迫害された時期もあったが自分たちで学校なども作り独自の発展を遂げていった。彼らはコーヒー農園でコーヒーを栽培していたが、当時コーヒー農園は奴隷制度が終わったばかり移民した人々は連れてこられてきた当初は奴隷の代わりのような労働を求められていたことに驚いた。

北の移民者は南とは違いコーヒーではなくコショウとカカオを栽培していた。

しかし当初カカオは栽培するのに 40%の日陰が必要なことが判明しておらず、移民者達は生活を安定させるのにとっても苦労したという話を聞いた。

4つ目にブラジルの朝市も日本とは違った活気があり大変いい経験となった。

市場で驚いたのは、ブラジルでは試食をしてから買うのが当たり前という文化があったことだ。市場で買い物客が積み重なって売られている果物を勝手に取って食べても、それは味見だからみんな気にしないということに衝撃を受けた。実際に市場を歩いていると様々な人から食べてみますか？と声をかけられた。

ブラジルの市場で特に気になったものが2つある。

1つ目は日本に比べ食べ物のサイズが大きいということだ。市場では日本の2倍はありそうなスイカが180円ほどで売られていて驚いた。果物のサイズだけでなく、肉や魚もサイズが大きく売られておりとても印象に残った。

2つ目はトウモロコシを使った商品が豊富に売られていたことだ。日本ではトウモロコシは実をそのままサラダに使ったりするのが主流だが、ブラジルではトウモロコシをすり潰してペースト状にしたものや、羊羹のようにお菓子として加工されているものもあった。日本とは違った食文化の違いに驚いた。

ブラジルのベレンには要塞もあり、要塞には実際に使われていた大砲なども置いてありポルトガルが他国から植民地にされないよう懸命に戦った国だということも知れた。

また、ブラジルでは日本とは違い物をなくしたら絶対にでてこないからしっかりと自分で危機管理をしなければならないという印象を抱いた。

また、私はブラジルの国内をサンパウロからベレンに移動する際、パスポートとクレジットカードと現金が入ったカバンをなくしてしまった。

その理由は私が座った席が非常口だったからだ。非常口に座っている人が荷物を持っていると非常時の際にカバンが邪魔になると危険だからと言われ、貴重品が入っているカバンを頭の上の荷物入れのところに預けられてしまった。

飛行機から降りる際にそれを機内に置いてきてしまい、機内に戻れない場所に来てから気づいたので空港の係の方に探して貰えるよう頼んだが、見つからないと言われてしまい私は貴重品が入ったカバンをそのままなくしてしまった。

この経験から海外では日本と違い物を紛失してしまっても、日本のように見つかる可能性は低いということ学んだ。そのため普段からの危機管理をしっかりとすることが大切だと感じた。また帰国する際に新しいパスポートのESTAが降りず、1人だけ帰りの飛行機に乗れないかもしれないという事態になりかけたので、緊急の際にはしっかり落ち着いてやるべき事を確認して動くということが大事だと思った。

今回のプログラムは適度に休憩があり、体調が悪くなることなくプログラムを楽しめた。一日休養の日などがあると身体的にも精神的にもより休息がとれ活動に専念できると思った。

・目的達成度の自己評価

今回ブラジルに行って、実際に行かなければ学べなかったと感じるものが数多くあった。今回の短期留学の自己評価で良かった点は、様々なものに直接的に触れて実学的に学べた点である。特に、前から気になっていた食品ロスの問題がブラジルでも発生していることが知れ、今後の自分の学びにいかせると考えた。

反省する点は、危機管理を怠ったことだ。海外は日本とくらべ治安も悪く、その中で貴重品を手放したことが今回パスポートをなくしたら原因だと考える。

また、今回私はお土産係を担当したが渡す人にいつ会うかを正確に認識出来ておらず、最初にお会いしたタイミングでお土産をお渡しできないことが数回あった。しっかりと先生とその日の予定の流れやお土産をお渡しするタイミングを話し合っておくべきだったと考える。

また今回プログラムでお会いする方々以外にもたくさんの現地の方にブラジルの農業についての説明や街の案内などでお世話になった。お土産の予備でハンドタオルをお世話になった方々に適切なタイミングで渡せた点は良かった点だと考える。

・今後の取り組み

今後の取り組みとして、興味がある食品ロスの問題がブラジルでも発生していることを知り今後の自分の研究にいかそうと考えた。

ブラジルで知った食品ロスは、アイス工場に見学に行った際に使えるアイスを、順番を考えないで使用されているため、まだ食べられるはずのアイスの品質がどんどん悪くなり結果的に捨てられる量が増えてしまう。また市場などで話を聞いた際にも気候的に食品ロスが生まれやすいなどの話を聞き、国ごとによる問題の相違点を感じた。食品ロスの研究をする際に、日本以外の問題も知れ視野が広がり非常にいい経験となった。今後の対策を考える上でも参考にしたいと考える。

また、ブラジルに行ってポルトガル語で会話をしてから外国語でコミュニケーションをとることの楽しさを発見した。

自分が知らない言葉でも、頑張って伝えようとすれば向こうも聞いてくれ意思が伝わった時はとても嬉しく感じたからだ。

現地の大学生と単語の意味を調べ、懸命に話をした結果連絡先を交換しあえ日本に帰国してからもコミュニケーションを取り合えるよき友人となれた。この経験から私は外国語で交流するために語学の勉強を志そうと思った。そして将来外国に行った際に自らコミュニケーションが取れるよう取り組みたいと思う。またコミュニケーションを取る際に、英語を勉強している現地の人々が数多く見受けられたのでポルトガル語が分からなくても英語が話せたらよりスムーズにコミュニケーションが取れると考えた。

・持って行ってよかったもの

ドライヤー、ウェットティッシュ、ショルダーポーチ、パスポートのコピー、お土産の予備、フェイスシールド、洗濯バサミが着いた物干し竿、洗剤、バッテリー、ガイドブック(現地の人と話のネタになった)

・用意したがいらなかったもの

- ・バスタオル(ホテルやファームステイ先のやつを使った)
- ・辞書(会話をする際に使うと時間がかかりすぎてしまい Google 翻訳で対応していた)
- ・ハンドタオル
- ・サングラス

- ・厚手の上着(パーカー)

- ・現地で使用したお小遣い

- ・全体的に物品は日本に比べ安く済んだ。ご飯を食べる際に 50 リアルかかることがよくあった。

- ・ホテルで頼むクリーニングは有料であり、なかなか値段も高いのでクリーニングに出す際は値段を確認することが重要だと考える。

- ・次年度以降の参加者へ、事前に準備、勉強しておくこと(箇条書き)

- ・ポルトガル語の練習

- ・ブラジルという国について知ること

- ・ズボンが中にしまえるくらいの長めの長靴

- ・飛行機の時間が長いのでクッションなどを用意しておく負担が減るかもしれない。

- ・貴重品をなくすこともありうるかもしれないので、パスポートと保険証のコピーは必ず取っておいた方がいいと考える。

- ・現地でお世話になった方に色紙をお渡しすることを考えると、色紙や書くものの準備を事前にしておくとスムーズに済むと考えた。

- ・WiFi は空港で借りられるので、集合時間の 30 分前には借りる手筈を済ませておくと余裕が持てる。

- ・現地では SIM カードも利用でき、WiFi は場所によっては電波が届かない場合があるので SIM カードが使える人は借り方を調べておいてもいいと考える。